

学力の定着を図る取組の工夫 ～主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりを基盤に～

いちき串木野市立生冠中学校

1 研究のねらい

本校は、過去に各種学力調査で全国平均や県平均を下回っており、授業改善や基礎的・基本的な学力の定着の必要性を感じていた。そこで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の授業はもとより、授業以外での教育活動や家庭学習における取組を進めたいと考え、研究・実践を行ってきた。

2 研究の概要

本研究は、以下3点の仮説を設定し研究を進めた。

- (1) 「書く・表現する・繰り返す」に視点をおいた授業づくりを工夫することで学力の定着を図ることができるのではないかと。【生冠授業づくりWER】
- (2) 家庭学習を習慣化させる工夫を通して、生徒の学力定着が一層図られるのではないかと。【生冠家学システム】
- (3) 教科外での手立てや多様な学びを工夫することで、学力向上が図られるのではないかと。【生冠プロジェクト】

3 研究の内容

仮説	生冠授業づくりWER	生冠家学システム	生冠プロジェクト
重点取組	(1) 授業づくり5ポイントの実践 (2) 各教科での生冠授業づくりWER (3) テスト分析を基にした授業づくり	(1) 新日課表 (2) 家庭学習の充実 (3) 個別最適な学び	(1) 多様な学び (2) 学力向上対策委員会 (3) 学びを見取る授業研究

4 研究の実際

(1) 生冠授業づくりWER

ア 各教科での生冠授業づくりWER

(イ) 書く (Write)

ノート、訂正ノート、英宅、ワーク等に授業・板書内容、自分の考えや気づき、振り返りなどを書く。

(ロ) 表現する (Express)

Jamboard・ロイロノート・書画カメラ・動画等のICT活用、合唱、作品制作、実技、記述プリント等を用いて、考察・まとめや実験観察結果などを他者に向けて表現する。



《理科：Jamboardでの発表》

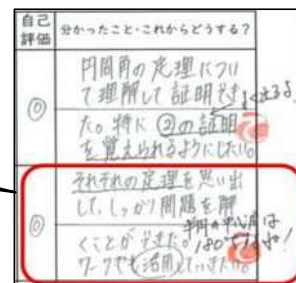
(ハ) 繰り返す (Repeat)

終末での振り返りやドリル、各教科の宿題、再テスト、今週の一問等を活用したり、反復練習を行ったりするなど、基礎学力の向上につながるような取組を繰り返す。

April (4月) ~ May (5月)					
Date	What did you read?	Read	Understand	Remember	Teacher's
4/10	7/11 (1) 1/2 (2) 1/3 (3)	○	○	○	○
4/16	7/11 (1) 1/2 (2) 1/3 (3)	○	○	○	○

《英語：音読カード》

「分かったこと」「これからどうする?」などを記入
↓
振り返り



《数学：自己評価票》

- ① 個人ごとに付箋の色を決める。
 - ② 実験結果から分かったこと・気付いたことを記入する。
 - ③ 実験時の写真等を挿入し、根拠に基づいて考察したことをまとめ、実験の振り返りを行う。
- ※ 写真に図や説明文を挿入し、わかりやすく表現する。

- ※ 授業中の音読練習は回数を重ねるごとに、生徒が主体的に練習に取り組むようになった。
- ※ 家庭では、毎日の音読に取り組んでいる。
- ※ 音読カードを活用し、読んだページを記録し、自己評価につなげている。

イ テスト分析を基にした授業づくり

各種学力調査の後には、本校独自のテスト分析を行い、通過率の低い問題を洗い出し、正答率と出題の意図を表示し、各教科でまとめ、学力向上タイムや学習まとめタイムで活用したり、授業づくりに役立てたりする。

《全国学力調査（英語）分析まとめ》

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

※誤答率の高い問題のデータや解答類型を黄色で示す。

《生冠中学校独自の調査問題の分析》

(2) 生冠家学システム

ア 新日課表（三点固定の生活）

- (ア) 1時間目開始 全て8時30分→終礼・全校集会等を放課後実施
- (イ) 部活動完全下校時刻 夏季18時 冬季17時30分→生活リズムを整える年間2パターン
- (ウ) 三点固定の「机に向かう時刻」20時までの設定→平日90分以上の学習

イ 家庭学習の充実

家庭での毎日の宅習ノート(マイセルノート)

「書く」学習に主体的に取り組む。

ウ 「やる気タイム（タブレット持ち帰り）」

月に1回週末にタブレットを持ち帰り、「スマイルネクスト」に30分以上取り組む。



《生徒が作成したマイセルノート》

(3) 生冠プロジェクト

ア 多様な学び

- (ア) 南風録の視写とタイトル・感想を記入することで読解力を高める。
- (イ) 生徒会の取組として全校生徒でオセモコの要約と発表を行っている。
- (ウ) 生徒による主体的な活動の時間として、読み聞かせタイムを月1回行っている。
- (エ) 「SDGs」や「平和学習」に関する個別課題解決学習を行い、学級での発表、文化祭での発表を通して地域に発信している。

イ 学びを見取る授業研究（「事実」を基にした授業研究）

「授業観察」において、生徒の学びを見取り、学びの事実に基づいた授業分析を行っている。授業研究が自分事となり、アドバイスを出し合う等、よりよい授業づくりにつながっている。

5 研究のまとめ

(1) 成果

- ア 書く活動、表現する活動、繰り返す活動に重点を置くことにより学力が向上している。
- イ 新日課表の導入により、三点固定の意識が高まり、生徒が机に向かう時間が早くなり、家庭学習の充実に繋がっている。
- ウ 南風録の視写やオセモコの要約発表を積み重ねたことにより、思考力・判断力・表現力が向上している。また、知識の引き出しや語彙力の増加に繋がっている。

(2) 課題

- ア 学力向上に一定の成果は得られたものの、更に向上させるため、目的意識をもって、書く活動、表現する活動、繰り返す活動を継続していく必要がある。
- イ 「やる気タイム」への取組に消極的な生徒がいることやマイセルノートへのまとめ方に課題がある生徒もいることから、家庭学習への取組の更なる充実が必要である。
- ウ 論点を捉えることに課題のある生徒がいることから、筆者の主張を捉えることができるように南風録の視写の継続した取組が必要である。

6 今後の取組

今後も本研究を継続して取り組んでいきたい。